

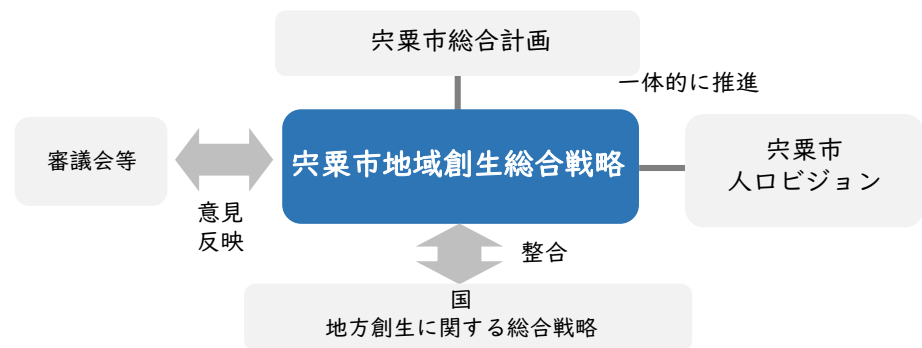
【概要版】第3次宍粟市地域創生総合戦略（案）

策定の経緯と趣旨

- ・我が国の総人口は2008年をピークに減少局面へ転じ、出生数の減少も続くなど、少子高齢化は深刻さを増しています。こうした状況を受け、国は2014年に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、地方創生に向けた取組を進めてきました。
- ・国は、2025年6月に「地方創生2.0基本構想」を閣議決定し、同年12月には「地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～」を策定し、人口減少の克服と地域経済の活性化に向けた施策を一層強化することとしています。
- ・本市ではこれまで、「第1次総合戦略（2016年度～2021年度）」と「第2次総合戦略（2022年度～2026年度）」に取り組んできました。これらの成果を踏まえ、国の方針に沿いながら、急速に進む人口減少・少子高齢化に対応するため、「第3次宍粟市地域創生総合戦略」を策定します。

戦略の位置づけ

これまでは本市の総合戦略の目的が、総合計画で掲げていた人口減少対策と広い範囲で一致していたため、一体として策定していました。今回、第3次総合計画が「人口が減少するなかにも、住民が幸せに暮らすための総合的な振興」を目的として策定されることから、総合戦略は「人口減少対策・地方創生」という特定の課題に焦点を絞り、地域特性を生かした創意工夫による重点事業を表すものとして、単独で策定します。



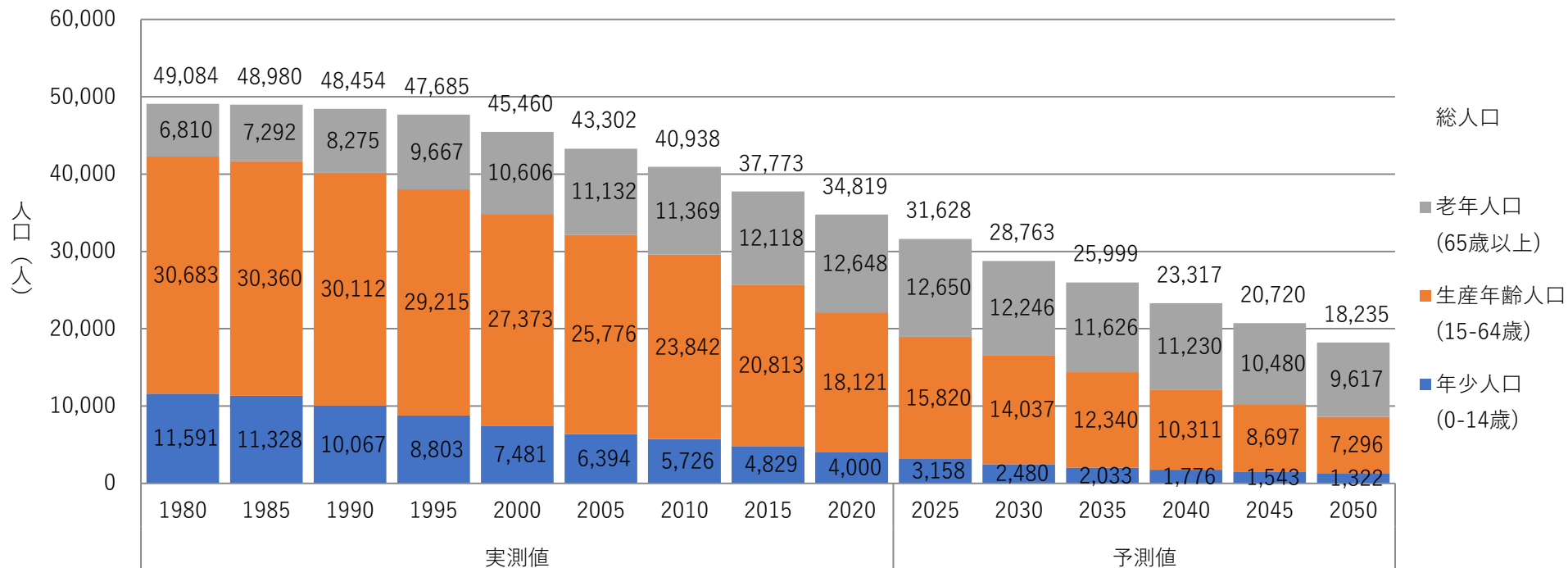
穴栗市の人口の現状①総人口の推移・年齢別人口

本市の総人口は、1980年に49,084人でしたが、2020年には34,819人となり、この40年間でおよそ14,000人が減少しました。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、この流れは今後も続き、2050年には18,235人にまで縮小すると見込まれています。

年齢別にみると、0～14歳の年少人口が1980年の11,591人から2020年には4,000人へと、40年間で6割以上も少なくなっています。15～64歳の生産年齢人口も30,683人から18,121人へと減少しており、地域を支える働き手の層が着実に薄くなってきている状況です。

65歳以上の老年人口は、1980年の6,810人から2020年には12,648人へと増加が続いていましたが、2025年以降は横ばいとなり、その後は減少に転じる見通しです。高齢者数が減っていく局面を迎えることで、医療・介護の需要にも変化が生じることが考えられます。

人口推移（年齢3区分）



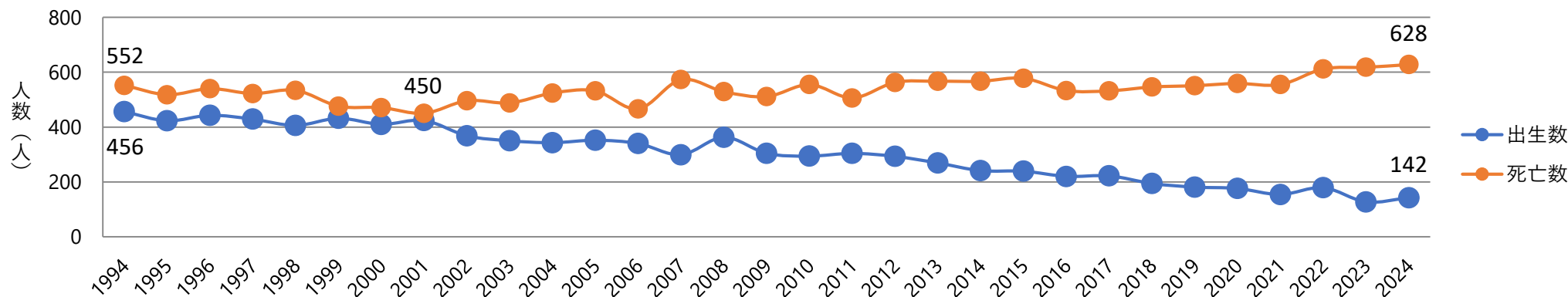
宍粟市の人口の現状②自然動態・社会動態

出生数は1994年の456人から2024年には142人まで減少しており、30年間で約7割少なくなりました。一方、死亡数はこの間、450人から628人の間で増減しつつ、全体としては増加傾向にあります。

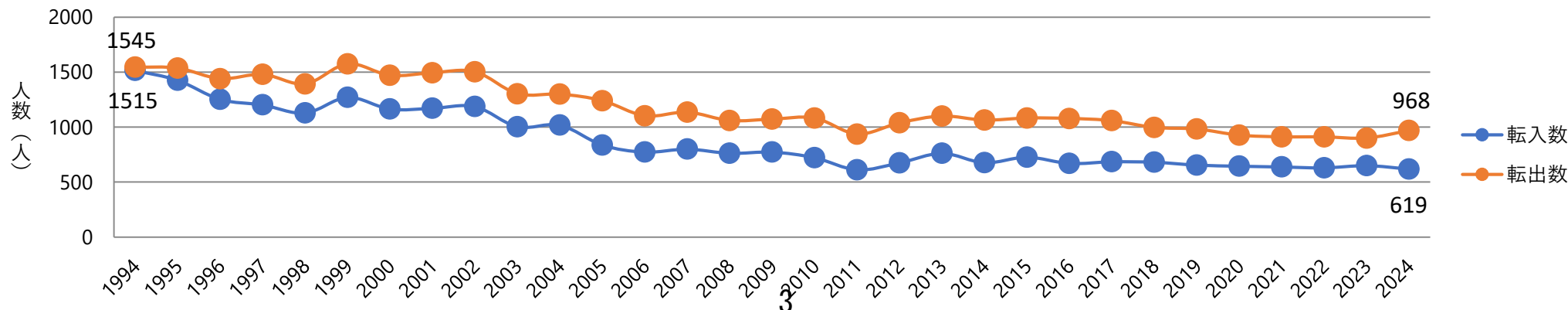
転入数は1994年の1,515人から2024年には619人へと大きく落ち込み、ピーク時の約4割まで下がっています。転出数も1,545人から968人へと減っていますが、転入の減少幅のほうが大きいため、転出超過の状態が続いています。

転入・転出ともに人数が減っていることは、市全体の人口が小さくなっているため、社会移動数もそれに伴って減少していると考えられます。

出生数・死亡数の推移



転入数・転出数の推移



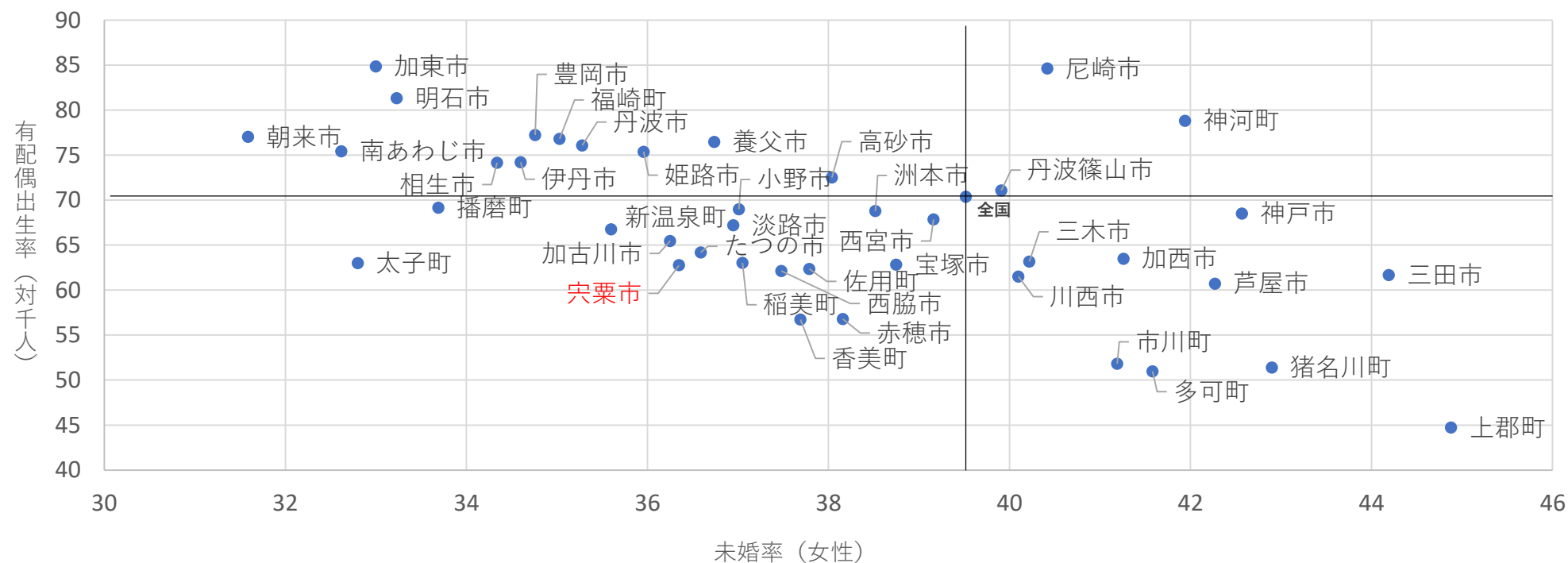
宍粟市の人口の現状③未婚率と有配偶出生率

2020年時点での25歳～39歳までの女性の未婚率を全国平均と比較すると、本市は36.35%と、全国平均（39.52%）を下回っており、全国より結婚している女性の割合が高いことを示しています。

一方、15歳～49歳までの結婚している女性の出生動向を示す指標である有配偶出生率は62.76（対千人）と、全国平均（70.35）を下回っており、「結婚後に子どもを持ちにくい状況」が数字として表れています。

こうした状況を踏まえると、保育環境の充実や子育て支援など、出生意欲を高める取り組みが課題と考えられます。

未婚率と有配偶出生率



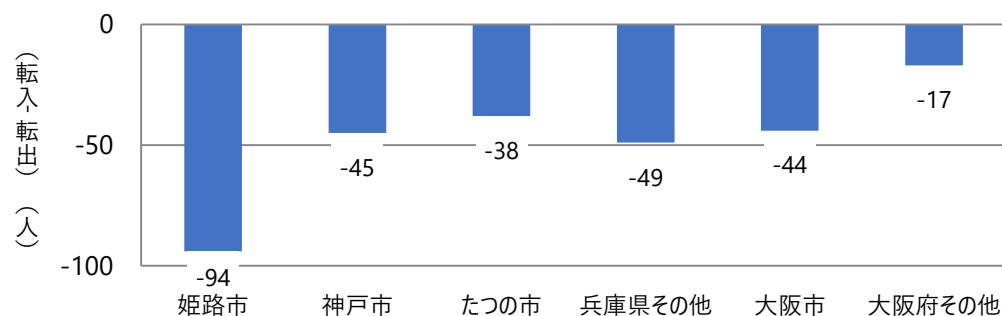
宍粟市の人口の現状④男女20歳台の主な転出先

2025年から過去5年間の20歳台男性の転入と転出それぞれの累計の差をみると、上位は姫路市（-94）、神戸市（-45人）、大阪市（-44人）となっており、播磨地域の中心都市や大阪圏に多くの若者が転出しています。

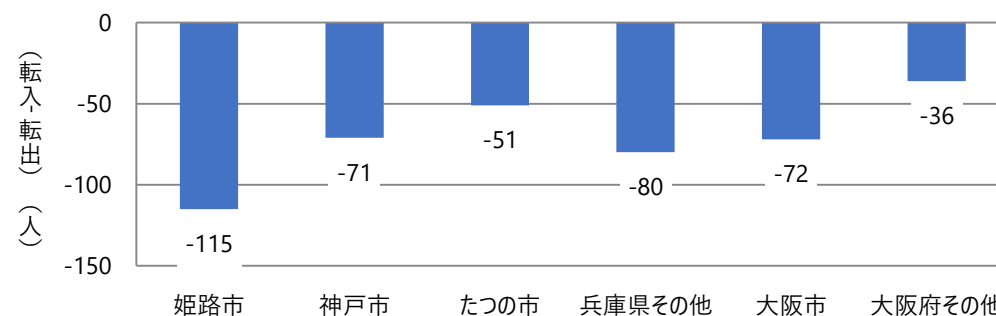
20歳台女性では、姫路市（-115人）、大阪市（-72人）、神戸市（-71人）と、男性以上に大都市圏へ流出しており、女性の20歳台における転出超過が顕著となっています。

男女ともに転出先の大部分が姫路市・大阪市・神戸市などの近隣大都市となっており、若い世代にとって魅力的な就労・生活環境をどう整えていくかが、引き続き課題となっています。

男性20歳台（転入－転出）



女性20歳台（転入－転出）



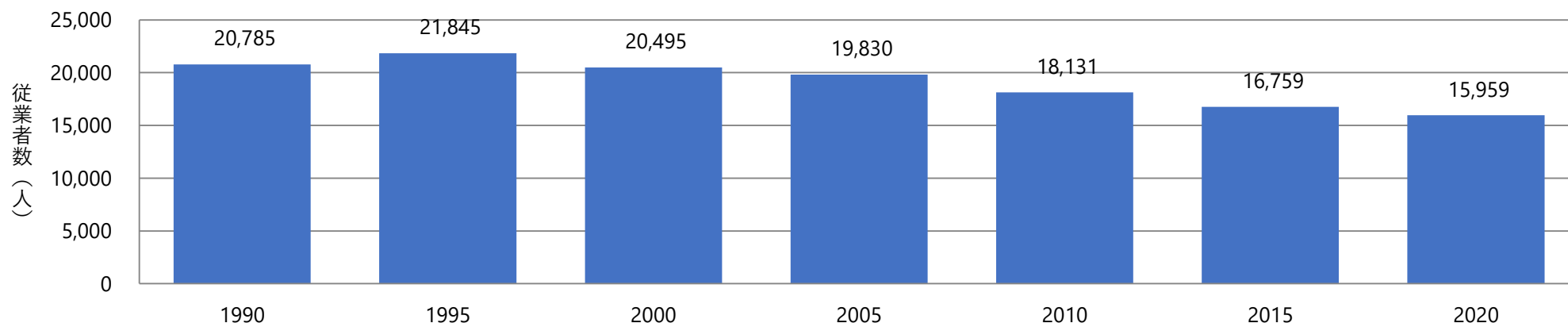
自治体	男性転入	男性転出	男性差引	女性転入	女性転出	女性差引
姫路市	74	168	-94	70	185	-115
神戸市	33	78	-45	42	113	-71
たつの市	24	62	-38	28	79	-51
兵庫県その他	130	179	-49	110	190	-80
大阪市	37	81	-44	35	107	-72
大阪府その他	44	61	-17	40	76	-36

宍粟市の経済の現状①従業者数と非正規雇用率

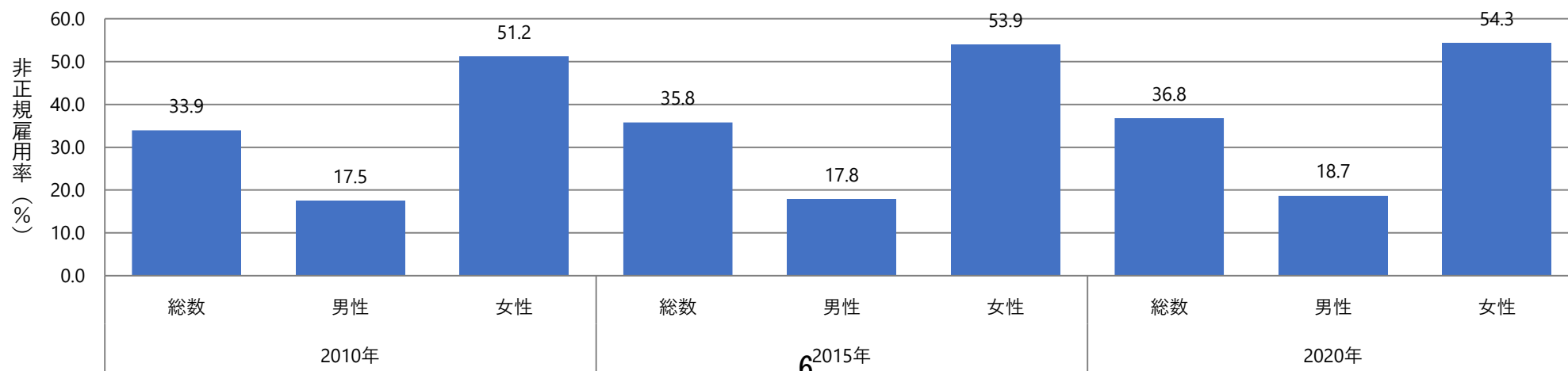
市内で働く従業者数は1995年の21,845人をピークに減少に転じ、2005年には20,000人を下回り、2020年は15,959人となっています。

非正規雇用率は、2010年には33.9%でしたが、2020年には36.8%と2.9ポイント増加しています。また、男女ともに非正規雇用率は増加していますが、特に女性では2010年から2020年にかけて3.1ポイント増加しています。

市内従業者の推移



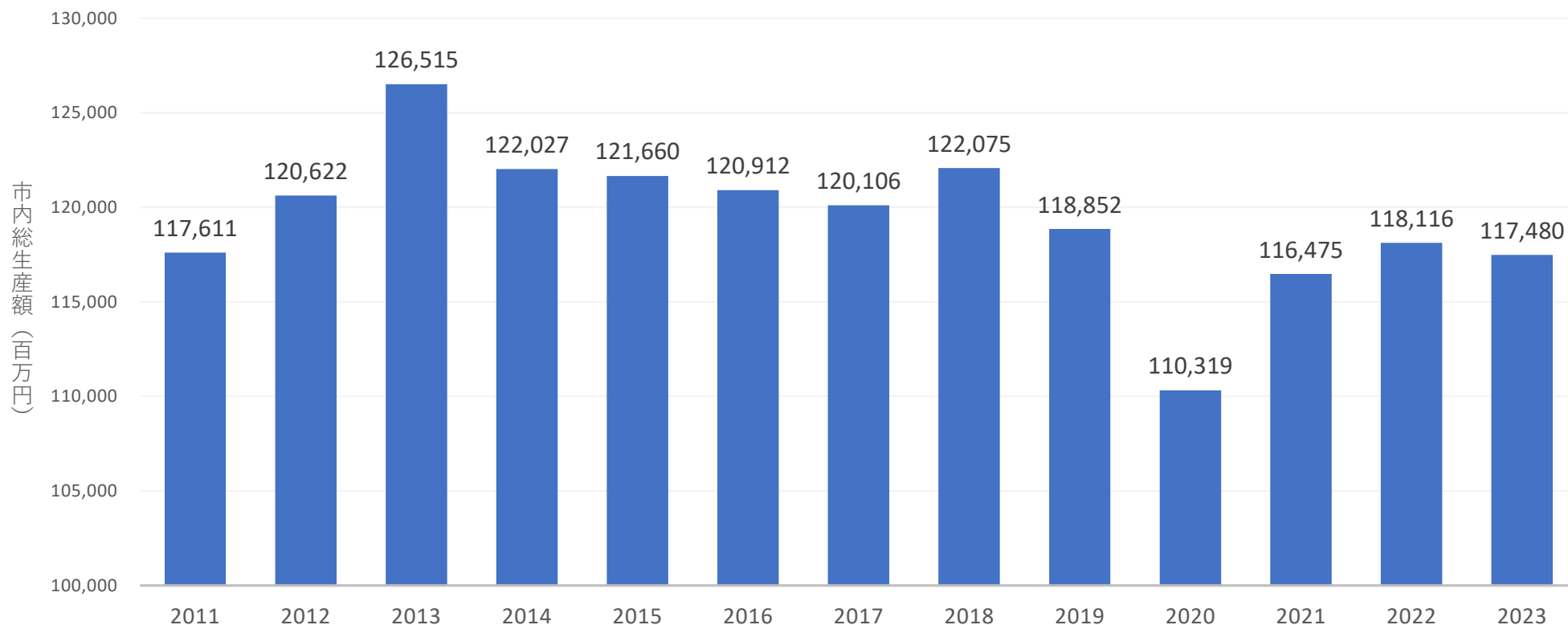
非正規雇用率



宍粟市の経済の現状②市内総生産

本市の市内総生産（実質）は、2011年度の約1,176億円を起点に、2013年度には約1,265億円まで伸びました。その後は、2018年度の増加を除き、全体としては減少傾向で推移し、2020年度には約1,103億円まで落ち込みました。2021年度以降は持ち直し、2023年度には約1,175億円と、コロナ禍以前の水準近くまで回復しています。

市内総生産（実質）



宍粟市の経済の現状③ 1人当たり市民所得

本市の1人当たり市民所得は、2011年度の221万6千円から2023年度の272万円へと、この12年間でおよそ50万円増加しています。2020年度に252万8千円まで一時的に落ち込んだものの、その後は回復し、2023年度には2011年以降でみると過去最高水準となっています。

ただし、2023年度の兵庫県全体の平均（327万7千円）とくらべると、本市は55万円前後の差があります。2023年度の西播磨地域の平均（278万5千円）と比べても下回っており、地域内でも相対的に低い水準にとどまっています。

1人当たり市民所得の推移



出典：兵庫県統計「令和5年度兵庫県市町民経済計算統計表（分配）」

※市民所得＝雇用者報酬・財産所得・企業所得などから構成され、経済全体の水準を示したものであり、個人の所得水準を示したものではない。

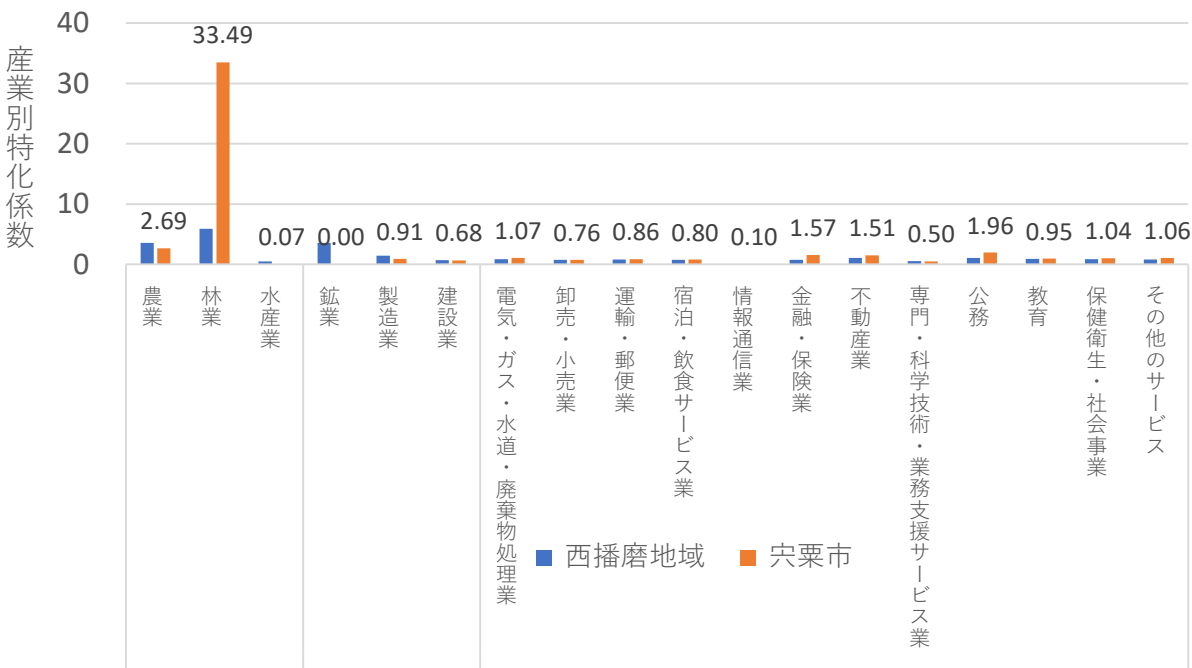
宍粟市の経済の現状④産業別特化係数

2023年度の産業別特化係数（兵庫県平均を1.0とした場合の相対的な比重）をみると、本市の第1次産業全体は3.20であり、中でも林業は33.49と非常に高い値を示しています。これは、林業が宍粟市の産業構造において兵庫県内の他市町と比べて際立って大きな位置を占めていることを示しており、宍粟市ならではの豊かな資源が強みとして表れています。

第2次産業全体の特化係数は0.88と県平均をやや下回っており、製造業（0.91）・建設業（0.68）ともに1.0を下回っています。第3次産業は全体で1.04とほぼ県平均並みですが、内訳をみると金融・保険業（1.57）、不動産業（1.51）、公務（1.96）が高めで、情報通信業（0.10）や専門・科学技術・業務支援サービス業（0.50）は大きく下回っています。

産業別特化係数（全体）	第一次産業	第二次産業	第三次産業
県平均	1.00	1.00	1.00
西播磨地域	2.83	1.35	0.82
相生市	0.33	1.74	0.66
赤穂市	3.46	1.67	0.67
宍粟市	3.20	0.88	1.04
たつの市	1.55	1.54	0.74
太子町	0.30	0.48	1.25
上郡町	19.13	0.84	0.96
佐用町	4.72	0.66	1.14

産業別特化係数（県総生産額ベース）



出典：兵庫県統計「令和5年度兵庫県市町民経済計算統計表（生産）」

穴栗市の現状と課題

人口・少子化について

本市の総人口は1980年の49,084人から2020年には34,819人へと減少し、2050年には18,235人まで縮小すると見込まれています。年少人口は40年間で6割以上減少し、生産年齢人口も減り続けるなど、地域を支える働き手の層が少なくなっています。さらに有配偶出生率は全国平均を下回っており、「結婚後に子どもを持ちにくい状況」がうかがえます。出生意欲を高める子育て支援や、若い世代が地域に定着できる環境を整えるとともに、今後はすべての年代で人口が減少する局面を迎えるため、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める必要があります。

産業・雇用について

経済面では、林業の特化係数が33.49と突出しており、豊かな森林資源は本市ならではの強みです。市内総生産はコロナ禍以前の水準まで回復しており、この回復傾向を活かした地域資源型産業の育成が重要です。一方、1人当たり市民所得は兵庫県平均を55万円前後下回る状況が続いており、林業以外の強みとなる産業を育てる必要があります。また従業者数は1995年をピークに減少し、非正規雇用率も上昇するなど雇用環境は厳しく、地域で働き続けたいと思える多様な就労環境の創出が引き続き課題です。

まとめ

本市は人口減少と働き手の減少が続き、暮らしと仕事の両面で厳しさが増しています。こうした状況を打開するには林業をはじめとする地域資源を活かして活力ある産業と雇用を生み出すとともに、子育て世代から高齢者まで誰もが安全安心に暮らせる生活環境を一体的に整えることが不可欠です。人口減少の抑制に取り組みながら、地域資源を活かして仕事や雇用をつくり、若者や女性に選ばれるとともに、世代を超えて誰もが暮らしやすい環境を整えることが、本市の重要な課題となります。

次期戦略の特徴①3つの重点目標

本市ではこれまで、人口減少の抑制と地域経済の活性化に向けて、第2次総合戦略において「住む」「働く」「産み育てる」「まちの魅力」の4つの重点戦略を設定し、施策を推進してきました。

第3次総合戦略では、本市の課題や第2次総合戦略の実績、国の「地方創生に関する総合戦略～これまでの地方創生の取組のフォローアップと推進戦略～」が示す政策目標および施策の基本的な方向を踏まえつつ、限られた資源を効果の高い分野へ重点的に投下するため、国の総合戦略が掲げる3つの政策目標「強い経済」「豊かな生活環境」「選ばれる地方」に沿って、本市の重点戦略を「働く」「暮らす」「選ばれる」の3つの重点目標として再編します。

重点目標1 働く～地域資源を活かして仕事と雇用をつくる～

第2次総合戦略の重点戦略「働く」では、就業率の現状維持を数値目標に掲げました。2020年の国勢調査では57.8%となり、2015年の国勢調査の56.9%と比較して現状を維持できたものの、依然として1人当たり市民所得は県平均を下回っており、地場産業の育成や多様な雇用の創出が課題となっています。これらの課題を踏まえ、地域資源を活かした産業振興と付加価値額の向上をより明確に測るため、最終的な数値目標として「市内総生産」を設定します。

第2次総合戦略の重点戦略

働く

数値目標：就業率
目標値：56.9%（2020年実績値：57.8%）



第3次総合戦略の重点目標

働く

～地域資源を活かして仕事と雇用をつくる～

数値目標：市内総生産
目標値：1,200億円（基準値 1,174億円）

重点目標２ 暮らす～子どもから高齢者まで安全安心の暮らしをつくる～

第2次総合戦略の重点戦略「産み育てる」では出生数の維持を数値目標に掲げ、あわせて「住む」で生活環境の整備による転出の抑制に取り組んできました。しかしながら、2025年の出生数は107人、転出超過数は316人ととどまるなど、目標値には届かず厳しい状況が続いています。これらは子育て支援と生活環境が一体に関わる課題であり、市民の生活実感が総合的に問われることから、第3次総合戦略では両戦略を統合します。子育て支援と生活環境の充実を一体的に進め、子どもから高齢者まで誰もが安全安心に暮らせるまちを実現することで、市民一人ひとりの生活満足度の向上をめざします。こうした満足度の高まりは、市民の定住意向を高め、副次的に転出の抑制にもつながることが期待されます。この成果を包括的に測る最終的な数値目標として、「宍粟市は住みよいまちだと思ふ人の割合」を設定します。

第2次総合戦略の重点戦略

住む

数値目標：転出超過数
目標値：245人（2025年実績値：316人）

産み育てる

数値目標：出生数
目標値：165人（2025年実績値：107人）



第3次総合戦略の重点目標

暮らす

～子どもから高齢者まで安全安心の暮らしをつくる～

数値目標：宍粟市は住みよいまちだと思ふ人の割合
目標値：70.0%（基準値 55.5%）

重点目標3 選ばれる～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさつをつくる～

第2次総合戦略の重点戦略「まちの魅力」では、観光入込客数を数値目標に掲げ、観光振興や地域資源を活かした魅力発信に取り組んできました。しかしながら、観光入込客数は2025年で88万人にとどまり、目標を下回るなど、集客力に課題が残りました。また、こうした来訪の多くが一時的なものにとどまり、本市と継続的に関わる関係人口の創出や、移住・定住には十分に結びついていません。この課題を踏まえ、これまで培ってきた観光資源や森林資源などの魅力にさらに磨きをかけ、関係人口の創出等に取り組むとともに、移住・定住の促進や地域への誇りを育むブランド形成を一体的に進めることで、市外からの転入の増加をめざします。「暮らす」で高めた生活満足度の副次的な効果である転出の抑制と、「選ばれる」でめざす転入の増加は、いずれも社会動態の改善という共通の成果に集約されることから、その両面を測るため、最終的な数値目標として「転出超過数」を設定します。

第2次総合戦略の重点戦略

まちの魅力

数値目標：観光入込客数
目標値：116,5万人（2025年実績値：88万人）



第3次総合戦略の重点目標

選ばれる

～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさつをつくる～

数値目標：転出超過数
目標値：166人（基準値 316人）

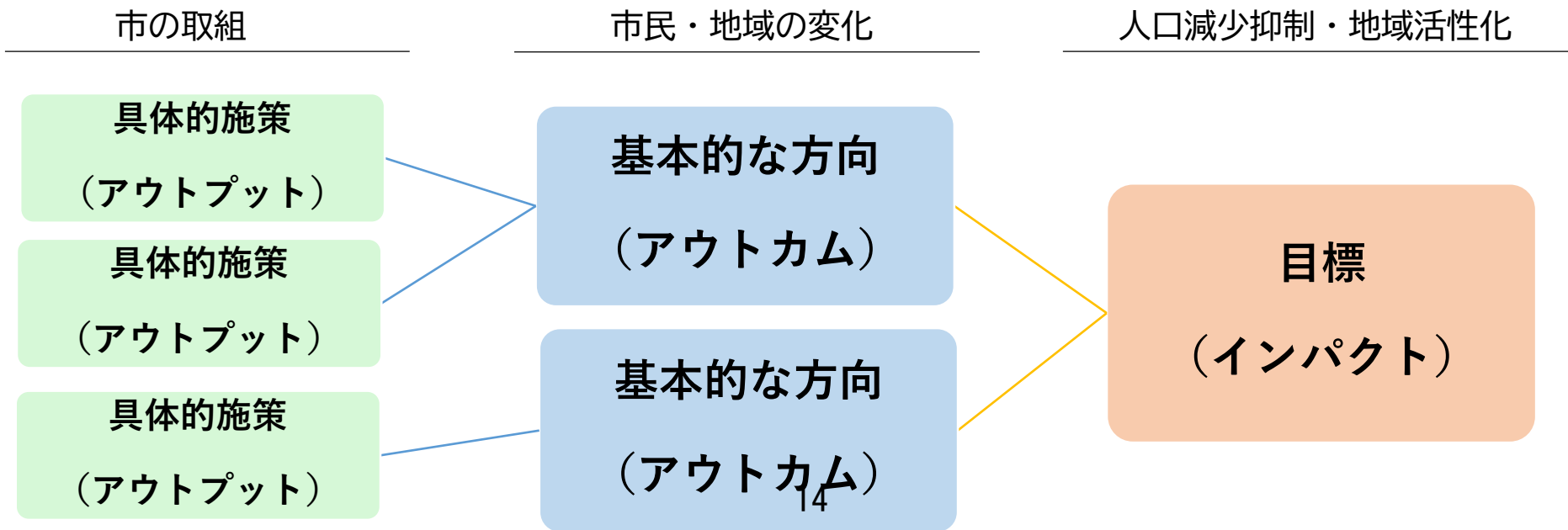
次期戦略の特徴②ロジックモデルの採用

本市の総合計画と総合戦略ではこれまでも数値目標を設定していましたが、各指標が最終目標にどう貢献するのが不明確でした。また、進捗管理が数値の達否に留まり、実効的な改善につながりにくいという課題がありました。

これらの課題を踏まえ、第3次総合戦略では、実効性を高めるため、目標と各施策の因果関係を整理する手法としてロジックモデルを採用します。

主な事業を具体的施策（アウトプット）として整理し、それらがまとまることで生じる市民・地域の変化や成果を基本的な方向（アウトカム）として位置づけます。さらに、これらの積み重ねによって重点目標に掲げる数値目標（インパクト）を達成し、最終的に総合戦略の目標に掲げる目標人口の達成に至る道筋を可視化します。この3段階の数値目標と工程表を設定することで、戦略策定後の評価において、各事業が目標達成にどれだけ貢献しているかを論理的に検証できるようにします。

ただし、ロジックモデルは複雑な因果関係を直線的に単純化して示すものであり、一つの事業が他の具体的施策にも効果を及ぼす場合も考えられます。そのため、ロジックモデルによって重点目標の達成をめざすとともに、最終的には「働く」「暮らす」「選ばれる」という3つの要素が相互に作用し合い、好循環を生み出すことによって、「人口減少の抑制・地域経済の活性化」につなげていくことをめざします。なお、複数の成果に関係すると思われる事業については、策定後の評価においてその他の関連事業として整理することとします。



ロジックモデル（全体イメージ）

①

具体的施策
（アウトプット）

②

基本的な方向
（アウトカム）

③

重点目標
（インパクト）

④

目標人口の達成

事業者の経営基盤強化と新規参入の促進
就労支援と人材力の向上

商工業の振興と多様な働き方の支援

林業の担い手確保と穴栗材の利活用
新規就農の促進と農業経営の強化
農業生産基盤の維持・再生

農林業の持続的発展と担い手育成

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援
保育・幼児教育の充実
学校教育の質の向上と教育環境整備

子育て環境と教育の充実

健康づくり・生活習慣病予防
高齢者が孤立しない地域づくり

健康づくりと生きがいづくりの推進

環境保全と循環型社会の推進
交通安全・防犯・防災による安全な暮らしの確保
住民主体の地域づくりと多様な参画の推進

安全安心で持続可能な生活環境の確保

空き家の活用による定住基盤の整備
移住支援と地域に関わる人材の受け入れ

移住・定住の促進

観光資源の価値向上
森林資源を活かした地域価値の向上
関係人口の創出

地域資源の魅力と価値向上によるつながりの
拡大

木育を通じた森林文化の継承
「発酵のふるさと」を軸とした地域ブランドの発
信

地域ブランドの形成と誇りあるふるさとづく
り

重点目標 1

働く

～地域資源を活かして仕事と雇用をつくる～

数値目標（インパクト指標）：市内総生産
目標値：1,200億円
（基準値：1,174億円）

重点目標 2

暮らす

～子どもから高齢者まで安全安心の暮らしをつくる～

数値目標（インパクト指標）：
穴栗市は住みよいまちだと思ふ人の割合
目標値：70.0%（基準値 55.5%）

重点目標 3

選ばれる

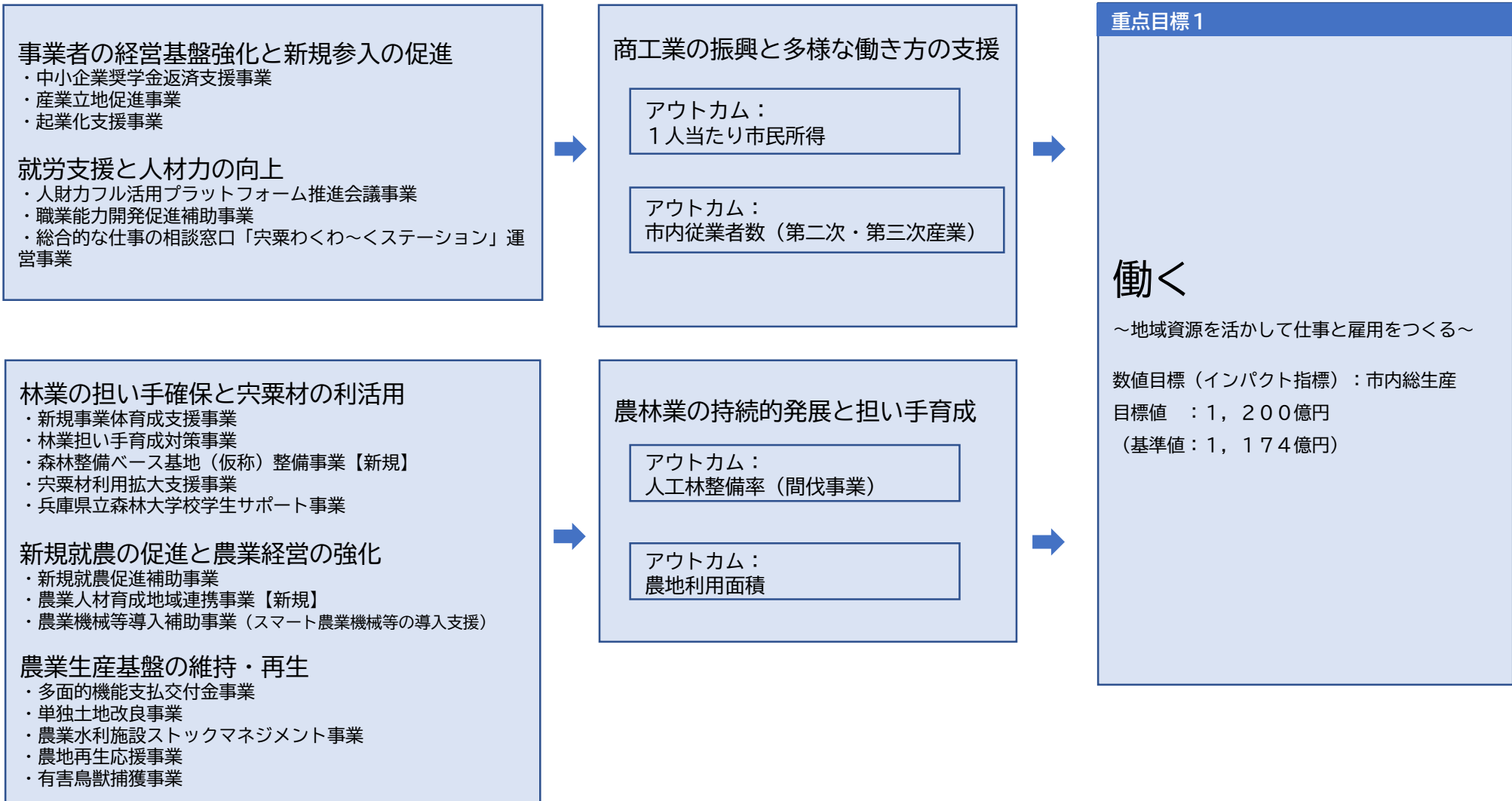
～若者や女性に選ばれ、世代を超えて誇れるふるさ
とをつくる～

数値目標（インパクト指標）：転出超過数
目標値：166人（基準値 316人）

2040年目標人口25,200人

2060年目標人口21,000人

重点目標1 働く～地域資源を活かして仕事と雇用をつくる～



妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援

- ・結婚新生活支援事業・妊婦健康診査費等助成事業
- ・病児病後児保育事業・ファミリーサポートセンター事業
- ・地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）

保育・幼児教育の充実

- ・あずかり学童保育事業
- ・乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）【新規】
- ・しそ幼小架け橋プログラム推進事業・保育士の資質向上研修事業

学校教育の質の向上と教育環境整備

- ・しそ学校生き生きプロジェクト事業（学力向上）
- ・しそ学校生き生きプロジェクト事業（体験学習）
- ・しーたんチャレンジ事業・小中ICT環境整備事業
- ・学校給食地産地消事業

健康づくり・生活習慣病予防

- ・特定健診・特定保健指導
- ・スポーツ活動の推進・生涯スポーツ活動の推進・健康づくりの推進

高齢者が孤立しない地域づくり

- ・認知症サポーター養成講座・高齢者通いの場づくり応援事業
- ・高齢者向け生涯学習事業

環境保全と循環型社会の推進

- ・生ごみ減量化の促進
- ・リサイクル（資源循環）の推進
- ・環境保全の啓発

交通安全・防犯・防災による安全な暮らしの確保

- ・交通安全教室・防犯灯設置補助事業・防災出前講座

住民主体の地域づくりと多様な参画の推進

- ・地域生活交通対策事業・消費者行政の推進・男女共同参画推進事業
- ・女性リーダー育成セミナー・地域運営組織（RMO）の形成支援
- ・地区コミュニティ支援員派遣・自治会女性役員参画推進事業
- ・自治体DX環境整備事業・交通系ICカードによるキャッシュレス決済の推進【新規】

子育て環境と教育の充実

アウトカム：
子育て支援への取組の満足度

アウトカム：
学校教育への取組の満足度

健康づくりと生きがいの推進

アウトカム：
健康づくりへの取組の満足度

アウトカム：
スポーツ活動への取組の満足度

安全安心で持続可能な生活環境の確保

アウトカム：
資源循環型社会に向けた取組の満足度

アウトカム：
防犯・交通安全の取組の満足度

アウトカム：
参画と協働・男女共同参画の取組の満足度

重点目標2

暮らし

～子どもから高齢者まで安全安心の暮らしをつくる～

数値目標（インパクト指標）：
 糸粟市は住みよいまちだと思ふ人の割合
目標値　：70.0%（基準値 55.5%）

